

第1 貸借対照表

1 貸借対照表とは何か

貸借対照表とは

●貸借対照表の仕組み

第1章では、決算書についてみてきました。

決算書には、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書があります。

この第2章では、貸借対照表をみていくことにします。

貸借対照表とは、

ある一定時点における財産の状況などを報告するものです。

会社の財産の状況が、貸借対照表においてどのように表されているのでしょうか。

まず、貸借対照表の仕組みについてみることにしましょう。

貸借対照表を大きく分けると、次のようにになります。

貸 借 対 照 表

資 産 の 部	負 債 の 部
	純 資 産 の 部

貸借対照表の見方 貸借対照表

貸借対照表の左側に資産の部があり、右側に負債の部と純資産の部があります。

そして、左側の資産の部の合計と、右側の負債の部と純資産の部の合計が、一致するのです。

貸借対照表は、必ず左右がバランスするので、

「バランスシート」

ともいいます。

ちなみに、会計上、左側のことを借方（かりかた）と、右側のことを貸方（かしかた）といいます。

以上のことから、貸借対照表は、

$$\text{資産} = \text{負債} + \text{純資産}$$

という等式が成り立ちます。

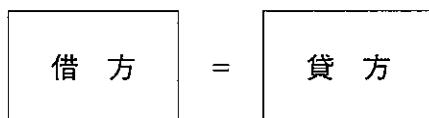
この等式は、貸借対照表の仕組みを説明する上でとても大切な式で、一般に、貸借対照表等式といわれています。

本当に、貸借対照表の左側と右側は一致しているのでしょうか。

新日本商事(株)の貸借対照表（前掲「第1章 第1 1」）をご覧ください。

貸借対照表の一番左下の資産合計が、2,586百万円、右下の負債・純資産合計が、同じ2,586百万円となっているのがわかります。

貸借対照表は、必ず、左右の貸借が一致します。



貸借対照表と会社の内容

●貸借対照表が表す会社の内容

それでは、資産の部、負債の部、純資産の部には、会社のどんな内容が表されているのでしょうか。

資産の部には、その会社が、決算日現在の

保有している財産と権利の状況

が表されています。

負債の部には、その会社が、決算日現在の

支払いもしくは返済しなければならない債務や借入

金の状況

が表されています。

そして、純資産の部には、その会社の決算日現在の

株主からの出資の状況

が表されています。

いいかえれば

資産 - 負債 = 純資産

つまり、純資産とは、

会社の財産や権利から債務や借入金を差し引いた残りの部分

といえます。

この純資産は、最終的には株主に帰属し、株主のものとなります。

●マイホーム購入に例えてみると…

資産・負債・純資産について、もう少し説明しましょう。

あなたが、マイホームを購入するケースを考えてみてください。

まず、マイホームを購入するための資金繰りを考えるはずです。

- ① 自分には、手許預金がどのくらいあって、いくらまで購入資金にあてられるか。
- ② 銀行等から、何パーセントでいくら借り入れができるか。
- ③ ①および②の結果、マイホームの購入価格がおおよそ決まり、マイホームを購入します。

このような考え方のうち、①が貸借対照表でいえば、資本金にあたります。

そのマイホームの所有者が、いいかえれば、会社の株主であり、手許預金がその株主からの出資にあたるわけです。

これについては、銀行借入のように返済する義務はありません。

また、②が負債にあたります。

これについては、利息と借入金の元金の返済が必要となります。

そして、①および②の資金繰りがついた場合、③のマイホームの購入となります。

購入したマイホームが、資産にあたります。